

SORA

web magazine 2016.nov. vol.79

ISLAND SAFARI ROYAL MALDIVES

PHOTO & TEXT : KYU FURUMI



アイランドサファリ・ロイヤル
王道コースの王道たる所以

MAP
CLICK!

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



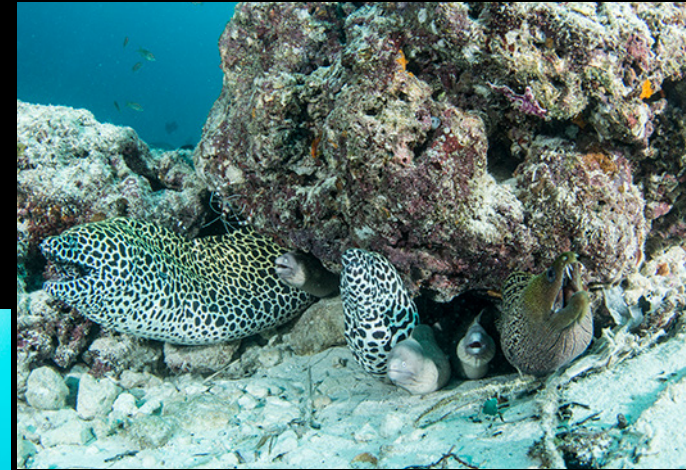
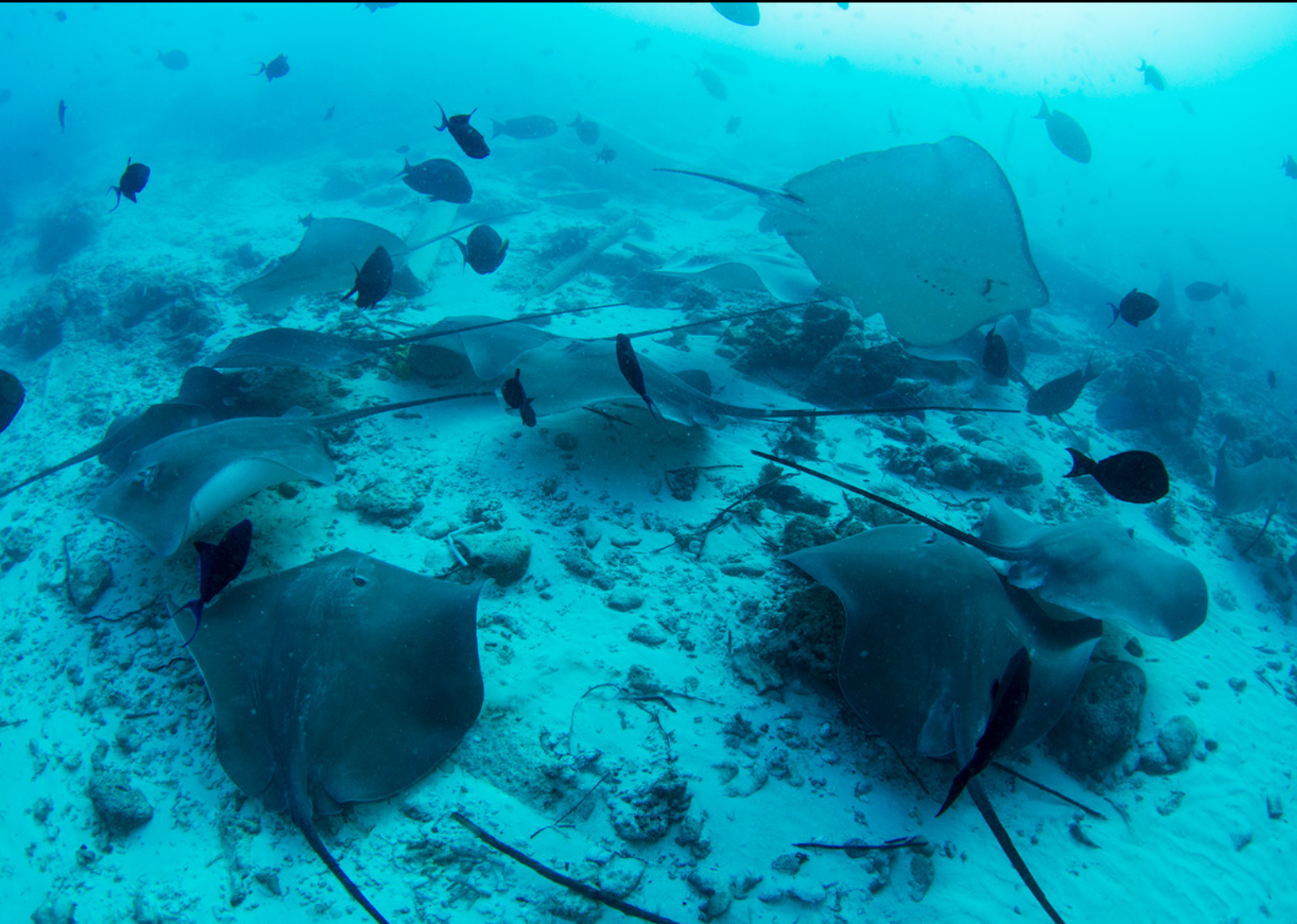
(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2016
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



近頃話題のニューポイント「FISH TANK」

「最近潜りはじめたポイントなんですけど、大きなエイがやたらと群れているんですよ」ガイドの的場さんが話す。そんな情報でまともなイメージが描けるはずもない。と、心の中でツッコミを一発。「あっそうだ、ウツボもいっぱいいました!」。なんとモザックリとした説明だろうか…。ドーニでの移動中に、こんなテンポでやり取りを行い、いざポイントへ。この「フィッシュタンク」は、きめの細かい砂のスロープがなだらかに下り続ける、地形としては単純なポイント。この日の透明度は 15m ほど、魚が特別に多いとも感じない。そしてエイの姿も見えない。若干の不安を感じ始めたころ、正面から大きな黒い物体が地を這うように現れた。しかも団体で。的場さんの言っていたことは実はかなりの的を射たものだった。疑ってごめんなさい。それどころか、なんだか SF 映画の世界にいるような感覚さえ感じた。ある意味、かなりスペシャルなニューポイントです。



魚群の誘惑

ジンベエザメやマンタなど、大物の出現を期待してモルディブを訪れるダイバーは多いだろう。いやひょっとしたら、ほとんどの人がそうなのかもしれない。しかしながらモルディブの魅力を個人的に挙げさせてもらえるのなら、絶対に「魚群」というキーワードを推したい。数々の魚たちが織

り成すフィッシュボールに包まれる快感を、存分に堪能してもらいたい。「フィッシュヘッド」のベンガルフエダイや「クダラティラ」のモルディブアネモネフィッシュの群れなんか最高ですよ。王道コースの魚群は、やっぱり王道中の王道なんですね。





コバンザメの孤独

ダイビング中にコバンザメに付きまとわれた経験はないだろうか。一匹のコバンザメがダイビンググループの間をうろうろウロウロ。誰かのタンクにくっついてみたり、フィンにくっついてみたり。時にはお尻なんかもくっついてしまう。きつとかなりの寂しがり屋で、誰かに寄り添っていないと不安なのでしょう。うんうん。オレがたくさん可愛がってあげるからね。なんてちょっとセンチメンタルな気分になっていたら、とてつもない大群で現れたコバンザメ…。たしかにこれなら寂しくないね。

「フィッシュヘッド」にはいつも何頭かのウミガメがいる。特にサイズは小さめのタイマイが、根の上でむしゃむしゃとカイメンやらイソギンチャクを食っている姿をよく見る。そしてこのタイマイたちは、驚くほどに警戒心が薄い。ゆっくりゆっくりアプローチすると、自ら僕のカメラを覗き込みにくるほどだ。「フィッシュヘッド」は昔から世界中のダイバーに愛され、大切にされてきたポイント。皆が守りたいという気持ちがあるからこそ、タイマイたちはストレスを感じることなく、この場で安心して生活することができるんだろうな。こんな光景がいつまでも見られる、平和な「フィッシュヘッド」であってほしいですね。





アイランドサファリ・ロイヤルで見る景色

就航 10 周年を迎えるアイランドサファリ・ロイヤル。これまでもたくさんのダイバーを乗せてモルディブの海を疾走し、数々のドラマを生んできた。アイランドサファリのトリップに乗船して毎回驚くのは、一人で参加しているというゲストの多さ。割合でいえば、乗船しているゲストの半数を占めている、ということも少なくはない。これはやはり同じ船に乗船し、共に潜り、寝食を共にすることによって新

たな絆や友情が芽生えるのかもしれない。ガイドの的場さんや板垣さんをはじめとする、アイランドサファリ・ロイヤルのスタッフの面々のホスピタリティも全てにおいて心地よい。誰もが安心して参加できるクルーズ、アイランドサファリ・ロイヤルのトリップ。これからも沢山の出会いをよろしくお願いします。